
遊戯王X D E

ドラゴン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王XDE

【Nコード】

N2183Z

【作者名】

ドラゴン

【あらすじ】

「貴様にこの力が使いこなせるか」その声が全ての始まりだった。ひよんなことから「・NO・」を集めることになってしまった主人公は仲間と協力しながら「・NO・」集めていく。

プロローグ（前書き）

初投稿です。ですが自分は、文才の才能がないので下手な文かもしれませんがよかったですら見てください。

プロローグ

プロローグ

突如、学校の放課後を告げるチャイムが鳴り響いた。

龍驒「さあーて学校も終わったことだし早く帰ってデュエルやろうぜ」

優「はいはいわかりました。どうせいつもの場所に集合でしょ」

龍驒「わかってんじゃん」

いつもの場所と言うのは、駅前の広場にあるデュエルスペースである。

龍驒「ほんじゃーはよこいよ」

優「はいはい」

――駅前広場――

龍驒「おしゃー今日は誰とデュエルしようかな」

優「ほどほどにしろよ」

龍驒「でも最近なかなか皆デュエルしてくれないんだよな」

優「当たり前だこころじゃお前は、滅茶苦茶強いんだからよっぽどの覚悟がないとデュエルはしないだろ」

その時、広場中に男の声が響き渡った。

？「あああああああ」

龍驒「なんだ向こうの方からだ行ってみよう」

優「まてそんなに急ぐな」

声の聞こえたほうに走っていくと男が倒れていた。

龍驒「一体何が」

プロローグ（後書き）

どうでしたか。デュエルまで持ち込めませんでしたでしたが次回持ち込みますので、よろしくお願いします。

キャラ紹介（前書き）

今回は、プロローグに出てきた龍驒と優の説明についてかこうと思います。

キャラ紹介

キャラ紹介

主人公

桂木 龍驒 かつらぎ りょうた

デッキ：星座デッキ

この話の主人公でありとても明るく誰とでも友達となれる性格です。黄道十二星座がモチーフになったデッキ、星座デッキを使う。

ここらではなのしれたデュエリストでその実力はプロ級である。

ひよんなことから「-NO-」を手に入れてしまい「-NO-」をかけた戦いに参加することになる。

使用する「-NO-」は、「NO-16時間龍タイム・オーバー・ドラゴン」

楠 優 くすのき ゆう

デッキ：ガイアデッキ

龍驒とは幼なじみでよくデュエルをしている。

地属性を主体としたデッキでそのデッキの力は不特定

龍驒と一緒にデュエルをしているうちに龍驒には、及ばないがその実力はプロ級である。

キャラ紹介（後書き）

なんか説明が短くなりましたがこれでわかったたでしょうか。わからなかったらすいません。

第1話 決闘（前書き）

がんばって書きますのでよかったらみてください。

第1話 決闘

声の聞こえた方についてみると男が倒れていた。

龍驒「一体何が」

？「この男対したことがなかったな、だが「・NO・」はいただいていくぞ」

その男が何かのカードを倒れている男からとっていく。

？「さてミッションも終わったことだし帰るか」

龍驒「待て、その人に何をした」

？「おまえが知ってどうする、てかおまえだれだ」

龍驒「俺は、桂木 龍驒」

優「何おまえは名乗ってんだよ」

龍驒「うるせえ優、そういうおまえこそ誰だよ」

？「名乗るものでもないじゃあなあ」

龍驒「待てデュエルだ俺が勝ったら全て教える」

？「ああん、なんだよその眼はむかつかないなあ、いいぞやってやろうじゃねえか」

龍驒「そうこなくちゃ」

優「さて、龍驒冷静になれそいつとデュエルしたらどうなるかわかんねえぞ」

龍驒「そんなことわかってるだがこいつと戦いてえんだ」

優「わかったよ。おまえは自分で言い出したことは、じつこつするやつだからなあ。絶対勝てよ」

龍驒「まかせとけ」

？「準備はいいか始めるぞ」

龍驒・？「決闘 デュエル」

第1話 決闘（後書き）

やっとデュエルが始まります次はやっとデュエルです。

第2話 混戦（前書き）

やっとデュエルが始まりました。

第2話 混戦

龍驒「？」「決闘 デュエル」

龍驒「俺の先攻ドロ」

俺は、モンスターをセット

カードを二枚伏せてターンエンド」

？「俺のターンドロ」

俺はファントム・ビーストを召喚

バトルフェイズ ファントム・ビーストでセットモンスターを
攻撃」

龍驒「セットモンスターは十二星座 バルゴ

このカードが破壊されたときデッキから十二星座と名のついで
たモンスター

1体を手札に加える事ができる

この効果でデッキから十二星座 キャンサーを手札に加える」
？「その程度かカードを2枚伏せてターンエンド」

龍驒 手札4枚

場 伏せカード2枚

？ 手札3枚

場 ファントム・ビースト

伏せカード2枚

龍驒「なんだと俺のターンドロ」

十二星座 キャンサーを召喚

バトルフェイズ 十二星座 キャンサーでファントム・ビーストに攻撃」

十二星座 キャンサー 1600VSファントム・ビースト 1400

？ライフ4000 3800

龍驒「十二星座 キャンサーは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃

できる

「キャンサーで二回目攻撃プレイヤーにダイレクトアタック」
優「よし、この攻撃が通れば大ダメージだ」

第2話 混戦（後書き）

なんか中途半端な場所でおわったしまいました

第3話 ・ N O ・ (前書き)

今回やっと ・ N O ・ が登場します

第3話 - NO .

龍驒「キャンサーダイレクトアタック」

?「そう、うまくいくとおもふなよ 畏カード オープンディメンシオンウォールこの効果でおまえがダメージを受けてもらう」

龍驒ライフ4000 2400

龍驒「この位のダメージぐらい平気だ ターンエンド」

?「そろそろ本気をだすか俺のターンドロワー ファントム・スライムを召喚」

効果発動1ターンに1度デッキから同名カードを特殊召喚できる こいファントム・スライム」

優「同じレベルのモンスターが2体来るのか」

?「いくぜレベル3のファントム・スライム2体をオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 エクシース召喚」

来いNO . - 10百銃王 ガトリングビースト」

龍驒「-NO . なんだあのカード」

?「百銃王 ガトリングビーストの効果発動 このカードのエクシース素材を一つ 取り除き相手フィールドのカードと相手の墓地のカードの数×100ダメージを 与える つまり400ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2400 2000

?「バトルフェイズ 百銃王ガトリングビーストでキャンサーに攻撃」

龍驒「畏カードオープン ハーフスター」

第3話 - NO・(後書き)

終わらない

第4話 力（前書き）

なんか全然話が進みません

第4話 力

龍驒「畏カードオープン ハーフスター このカードは相手モンスター攻撃時発動

相手モンスターの攻撃力を半分にする」

NO・16百銃王 ガトリングビースト 1000VS十二星座
キャンサー 1600
?ライフ3800 3200

龍驒「よしこれで・NOを倒したぜ案外楽勝」

?「勝手に喜んでろ」

龍驒「何いってんだお前のエースモンスターが破壊せれたんだぞ」
?「そう見えるならそれでいい」

龍驒「ええ」

奴の場を見るとそこには倒したはずの・NOが

龍驒「おいどういことだよそのモンスターは、倒したはずじゃ」

?「あまい・NOは、NOと名のついたモンスターじゃなければ破壊できない」

龍驒「チート効果も対外にしる」

?「まあいいコレでターンエンドだ」

龍驒「俺のターンドロワー モンスターをセット キャンサーを守備表示へ変更 カードを一枚伏せてターンエンド」

?「何も出来ぬようだ俺のターンドロワー この勝負俺の勝ちだ手札から魔法カードフロントムチェンジ発動

この効果により相手モンスターの表示形式を全て変更する。

さらに百銃王 ガトリングビーストの効果発動

エクシース素材を取り除き相手のフィールドと相手の墓地のカードの数×100ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2000 1600

?「それではバトルフェイズガトリングビーストで十二星座 カプ

リコンへ攻撃 ラストガトリング」

龍驒「畏カードオープン 電熱波 手札を任意の数捨てて捨てた枚数かける100ポイント攻撃力をアップする」

十二星座カプリコン100 500

百銃王 ガトリングビースト 2000VS十二星座 カプリコン
500

龍驒ライフ1600 100

龍驒「このときカプリコンの効果によりデッキから十二星座 ジェミニを手札に」

?「命拾いしたなカードを一枚伏せてターンエンド」

龍驒「ここまでなのか」

??「貴様にこの力が使いこなせるか」

龍驒「誰だ」

そのとき俺の中に何かが入ってきた気がした

龍驒「俺のターンドロ 十二星座ジェミニを召喚 ジェミニの能力でデッキからレベル4光属性モンスターを特殊召喚できる こい十二星座タウロス」

??「さあ私を呼べ」

龍驒「なんだエクストラがこのカードは、-NO何でもいまはこれしかねえ」

レベル4のジェミニとタウロスでオーバレイ 二体のモンスターでオーバレイネットワークを構築エクシーズ召喚 出でよ
NO-16 時間龍タイムオーバードラゴン」

?「何-NOだと」

龍驒「コレが俺の力いくぞタイムオーバードラゴンの効果発動」

第4話 力（後書き）

なんか疲れました。

今回やっと龍驤の・NOを出せました。

第5話 - NO・実力

龍驒「タイムオーバードラゴン効果発動 このカードのエクシーズ素材一つ取り除きこのカードと相手フィールドのすべてのモンスターをゲームから除外する」

？「なに」

龍驒「そしてカードを一枚伏せてターンエンド」

？「少しお前をあまく見すぎたようだ改めて名前は」

龍驒「桂木 龍驒」

蓮「俺は林道 蓮 俺のターンエンドー ターンエンド」

龍驒「俺のターンエンドー この瞬間タイムオーバードラゴンの効果で除外したモンスターをフィールドに戻す リバースカードオープン 再度能力 能力により墓地のモンスター1体の効果を得る 俺は星座使い アンドロメダの効果を得る 墓地罫カード怒りの賞効果発動 このカードを除外し自分フィールド上のモンスターの攻撃力に守備力を加える 十二星座 サジタリウスを召喚 アンドロメダの効果を得たタイムオーバードラゴンの効果発動 自分フィールド上の星座とのついたモンスターの攻撃力分アップし相手のカード効果をこのターン受けない」

時間龍 タイムオーバードラゴン 2500 4500 6000

蓮「攻撃力6000」

龍驒「これでとどめだ時間龍タイムオーバードラゴンで百銃王 ガ

トリングビーストに攻撃 タイムゲート」

蓮「くそー」

蓮ライフ3800 0

優「龍驒のやつ勝ちやがった」

龍驒「よっしゃー」

その時、俺のエクストラが光った

龍驒「このカードは」

そこには、NO-10百銃王 ガトリンググビーストがあつた

龍驒「何故俺のエクストラに、ガトリンググビーストが」

蓮「その理由は、NOをデュエル中使いもし相手がNOを持っていて負ければそのカードは奪われる

そしてNOが0になつた時点でその者は消える」

龍驒「そんな じゃあ何でお前は消えてないんだよ」

蓮「それは、俺がまだNOを持っているからだ」

そう言うと蓮は、エクストラからカードを取り出した

蓮「NO-23 空間龍 スペースオーバードラゴンこれが俺の

NO」

龍驒「それじゃあさっきの男は？」

蓮「やはりマダ持つてやがったかNOを

ミツシヨン失敗かそれじゃあな龍驒次は負けないからな」

そついうと蓮は、姿を消していた。

龍驒「林道 蓮かあ 強い相手だったな」

それよりあの時の声なんだつたんだろう

優「龍驒帰るぞ 今日はいろいろありすぎて疲れた」

龍驒「おう」

そつして俺たちは、家に帰つた。

――次の日――

龍驒「どういうことだよ」

そこには、倒れた家族

龍驒「母さん 父さん 秀どうなつてんだよ」

ふと周りを見るとカードが1枚落ちていた。

龍驒「NO-50 ハーフエンドルーラーなんでこんなカードが」

父さん「りよ・・・う・だ」

龍驒「父さん！」

父さん「そのカードを持って早く逃げろ」

龍驒「父さんどうということだよ」

父さん「奴らが来る前に早く」

という父さんは、俺を外へ追い出した

龍驤「どういふことだよ」

父さん「早くいけ」

そついわれて事の重大さにきずいた俺は夢中で走った。

第5話 - NO・実力（後書き）

なんかシリアスな展開になりました。

第6話 希望と絶望（前書き）

今回は、父さんサイドの視点があります。
ちなみに父親の名前は、桂木 真です。

第6話 希望と絶望

桂木 真 目線

龍驒が出て行ってすぐのこと

真「やっと龍驒の奴いったかさてと早いところいつらを倒さないと

ちなみに聞くがお前らは誰だ」

?「……………」

真「答えるわけないかそれじゃあコレでデュエルをつけようか」

?「……………」

そうすると相手もデュエルディスクを出した

真・?「決闘 デュエル」

――10分後――

真「ざつとこんなものか」

そこにはさっきの奴らが倒れている。

真「大丈夫だったか秀 母さん」

母さん・秀「大丈夫」

真「あとは龍驒が上手くやれば」

桂木 龍驒 目線

龍驒「どういうことだったんだ」

そっぴいなから走っていると。

?「龍驒……」

優「どうしたんだよ」

そこには優がいた。

龍驒「優なんでお前がここにいるんだよ」

優「なんかむな騒ぎがしてそれより龍驒こそ何をやっているんだよ」

龍驒「それが」

――事情説明中――

優「そんな事があつたんだ　でそのカードていつのは？」

龍驒「このカードなんだけど」

そういつて俺は優にカードを渡した

優「んん」

龍驒「どうしたんだよ」

優「なんか後ろに紙がついてる」

そついうと優は俺に紙を渡した来た

龍驒「これはどういふことだ」

第6話 希望と絶望（後書き）

自分もこの先の展開を考えていません ヘルプ

第7話 陰謀

龍驒「どういうことだ」

その紙に書かれていたことは、「-NOを全て集めて来いそうすれば世界は救われる」

龍驒「なんだよこの文意味が分からない」

俺は優にその紙を渡すと

優「まあ-NOを集めろってことでしょ」

龍驒「まあ確かにそうだけど」

その時、謎の男が俺たちの前に現れた

？「貴様か蓮を倒したというのは」

龍驒「だれだ」

？「俺は-NOを集めるものそして貴様を倒しに来た」

そういうとその男はデュエルディスクを出してきた

？「デュエルだ龍驒」

龍驒「やってやろうじゃないか」

優「まて龍驒ここは俺にやらせる」

龍驒「何いってんだよお前-NOを回収するんだぞ俺がやらなくてどうする」

優「それなら大丈夫だ」

そういうと優はエクストラからカードを取り出した。

龍驒「そのカードは、-NO何でお前が」

優「ちよつとなと言うわけだ別に俺でもいいだろ」

？「構わないいずれにしろどちらも倒すのだから」

優「とりあえず聞いておく名前は」

？「名前を聞きたいなら自分から名乗るのが筋だろ」

優「楠 優だ」

翔太「久上院 翔太 それじゃあ始めようか」

始まるお互いの命と-NOをかけた戦いが

優・翔太「決闘 デュエル」

第7話 陰謀（後書き）

まさかの優も・NOの使い手でした次回は、キャラ紹介といきたいです。

キャラ紹介2（前書き）

今回は、敵と出てきた・NOについて書きたいと思います。

キャラ紹介2

キャラ紹介

林道 蓮 りんどう れん 年齢15

デッキ：ファントムデッキ

この話のライバル的な存在の敵です。

その実力は、プロ以上の実力を持つ。

龍驒に負けたことにより、NOを一枚失うものの自分の使う本当の

- NOをまだ持っていた。

幻影・混沌などを主体としたデッキ。

久上院 翔太 くじょういん しょうた 年齢15

デッキ：サイクロンデッキ

- NOを集めている少年林道 蓮とわ何らかのつながりがあるようだがいま不明

風属性を主体としたデッキを使っている。

登場した - NO

NO - 16 時間龍 タイムオーバードラゴン 光

ドラゴン族 ランク4 ATK/2500 DEF/2000

レベル4モンスター×2

このカードのエクシーズ素材を取り除きこのカードと全ての相手モンスターをゲームから除外する。

そのモンスターは、次の自分のスタンバイフェイズにフィールドに戻す。

その時このカードのエクシーズ素材が残っていた場合そのカードの墓地からこのカードの下におく。

NO - 10 百銃王 ガトリンググビースト 光

獣族 ランク3 ATK/2000 DEF/3000

レベル3モンスター×2

1ターンに1度このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き発動。
相手のフィールド上のカードと相手の墓地のカードの数×1000ポ
イントのダメージを与える。

第8話 決闘2（前書き）

今回もPSPからの投稿なので短いです。

第8話 決闘2

優・翔太「決闘 デュエル」

優「俺の先攻ドロ― 地獣グランを召喚 地獣グランの効果発動

効果により手札のカードを1枚魔法・罨ゾーンにセットする

さらにカードを1枚伏せてターンエンド」

翔太「俺のターンドロ― サイクロンレーターを召喚

バトルフェイズサイクロンレーターで地獣グランに攻撃」

サイクロンレーター 1600VS地獣グラン 1500

優ライフ4000 3800

優「地獣グランの効果発動このカードが破壊されたときフィールドの魔法・罨ゾーンにあるカードを1枚破壊する このカードの効果で俺のフィールド場の伏せカードを破壊する 破壊されたカード地獣フォースの効果でセットされたこのカードが破壊された時、特殊召喚できる 来い地獣フォース」

翔太「なに！いつの間にそんなカードを第一モンスターを魔法・罨ゾーンに伏せるなんてできるわけがない」

優「それができるんだよ。いやできたんだよこのカードを使えば」
そう言うつと優は、地獣グランを見せてきた。

翔太「そう言えばあの時 まあいいカードを1枚伏せてターンエンド」

第8話 決闘2（後書き）

優 ライフ3800 手札3枚

場 地獣フォース 伏せカード1枚

翔太 ライフ4000 手札4枚

場 サイクロンレーター 伏せカード1枚

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2183z/>

遊戯王XDE

2011年12月10日21時51分発行